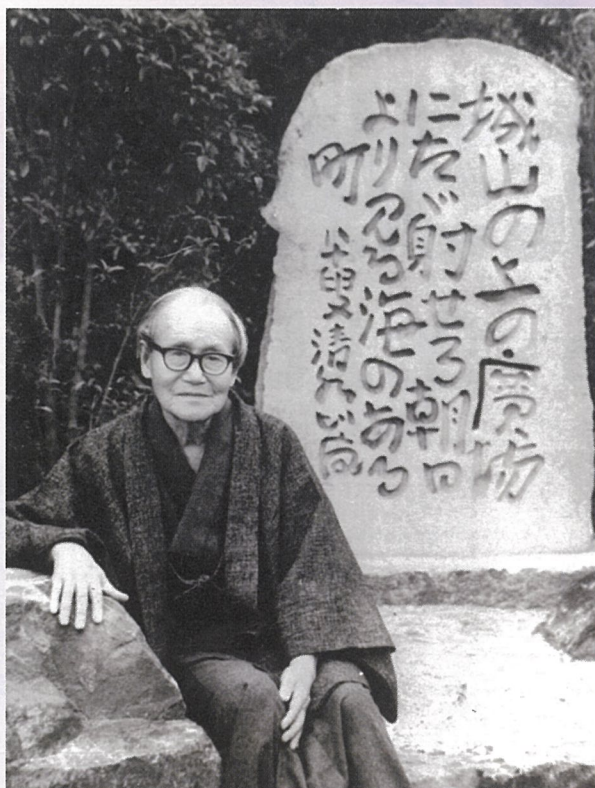


〈特別展〉1階展示室

没後
50年

清水比庵展



古城山公園（岡山県笠岡市）歌碑の前にて／昭和40年頃

しみず ひあん
清水 比庵

（本名 秀／1883(明治16)年～1975(昭和50)年／現・岡山県高梁市生）
高梁中学校、第六高等学校を経て、京都帝国大学法科大学を卒業、司法官となる。その後、銀行、会社勤務を経て、栃木県日光町（現・日光市）町長を務める。在職中から歌誌を主宰し、町長を辞してからは歌・書・画の三芸に没頭した。

笠岡には大正12年、関東大震災のため仮寓、昭和19年から22年まで疎開するなどゆかりが深い。



額「朝日に雀」

朝日いま上らんとしてくれなみに
東なかばを染めばかしたり 比庵九十二

2025.6.22(日)～9.15(月・祝)

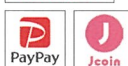
開館：9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休館日：毎週月曜日（祝日は開館）、祝日の翌日（7/22(火)、8/12(火)）

入館料：一般 400 円、大学・高校生 300 円、中学・小学生 200 円

*シルバー割など各種割引あり

晴れの国カード
EcoCA
両方使えます！



後援：中国銀行 岡山県郷土文化財団、岡山市文学賞運営委員会

関連イベント

講演会「比庵芸術の再評価 ―没後50年に際して―」

講師 うえぞの しろう
上園四郎氏（笠岡市立竹喬美術館元館長）

日時 2025年7月6日（日）13：30～15：00

会場 吉備路文学館2階北泉ホール

定員 50名（要予約・先着順）

申込方法 お電話（086-223-7411）にてお申込みください。

入館料でご参加いただけます。

*なるべく公共交通機関にてお越しください。



吉備路文学館

KIBIJI LITERARY MUSEUM

〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-5-35
TEL(086) 223-7411 FAX(086) 223-7418
<http://www.kibiji.or.jp>



文学創造都市 おかやま

天満屋岡山本店から撮影した岡山市街地(部分)
1945年6月29日から約1ヵ月後 坂本一夫撮影
岡山空襲展示室 所蔵

企画展〈2階展示室〉

戦後80年

吉備路の作家たちが見た戦争

2025.6.22(日) ▶ 9.15(月・祝)

昭和20年8月15日の終戦日から数えて80年を迎える節目の
本年、弊館では企画展「戦後80年 —吉備路の作家たちが見た
戦争—」を開催いたします。戦争の終結に至るまでの道程で、
ある作家は弾圧され、ある作家は戦地へ赴き、ある作家は空襲
から逃げまどい、そしてある作家はその命を散らしました。

この動乱の時代を体験した吉備路に縁のある作家たちがその
時どのように行動し、どのような作品を生み出したかを著作
やゆかりの品を交えてご紹介いたします。



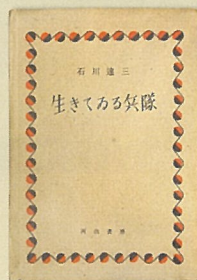
石川達三
(1905~1985) 小説家



里村欣三
(1902~1945) 小説家



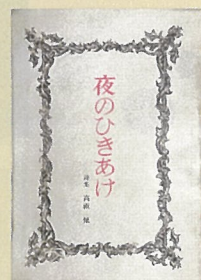
高祖 保
(1910~1945) 詩人
画像提供 宮部修



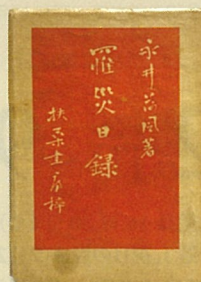
石川達三著『生きてゐる兵隊』
(河出書房、1945)



里村欣三著
『北ボルネオ紀行 河の民』
(有光社、1943)



高祖保著『夜のひきあげ』
(青木書店、1944)



永井荷風著『罹災日録』
(扶桑書房、1947)



内田百閒著『東京焼燼』
(大日本雄辯會講談社、1955)



小手鞠るい著
『川滝少年のスケッチブック』
(講談社、2023)

関連イベント

第55回 おはなしのWA♪ 朗読会

「戦後80年 吉備路の作家たちが綴った戦争を読む」

出演：朗読グループ おはなしのWA♪

朗読作品：あさのあつこ『くつの音が』

小手鞠るい『川滝少年のスケッチブック』等

日時：令和7年8月2日(土)13:00~14:30

会場：吉備路文学館2階北泉ホール

定員：50名(要予約・先着順)

参加費：入館料でご参加いただけます。

申込方法：お電話(086-223-7411)にて

お申込みください。



*公共交通機関にてお越しください

おはなしのWA♪



写真提供：おはなしのWA♪

吉備路文学館
KIBIJI LITERARY MUSEUM

協力：岡山空襲展示室